

委員長賞

(小学生の部)

差別やいじめのない社会をつくるために

岸和田市立常盤小学校6年

三浦 結羽 さん

差別やいじめのない社会って、どんな社会なのだろうか？それはきっと、だれもが自分らしく安心して笑顔でいられる社会のことだと思います。けれども、今の世の中には、まだ色々な差別やいじめがあります。どうすれば、そんな悲しいことがなくなるのでしょうか。私は、そのために大切なことが三つあると思います。

一つ目は「ちがいを」知ること。人にはいろいろな「ちがい」があります。生まれ育った場所、肌の色、話す言葉、得意なこと、苦手なこと。見た目には分からない心のあり方も、人それぞれです。でも、この「ちがい」は、決して悪いことではありません。むしろ、世界を面白く、豊かにしてくれるもの。知らないことや違うことを怖いと感じることもあるかもしれませんが、でも、それは「知るチャンス」だと思って、相手の話をよく聞いてみましょう。そうすれば、「ちがい」は「おもしろさ」に変わっていくはずだと思う。

二つ目は、「相手の気持ちを想像すること。」いじめや差別の多くは、相手の気持ちを考えないまま、平気でひどいことを言ったり、したりすることで生まれる。もし自分が同じことをされたら、どんな気持ちになるでしょうか。胸がぎゅっと苦しくなったり、悲しくて涙が出たりするかもしれません。そんな風に、相手の立場になって考えてみる習慣が大切です。自分が言われたりされたりして嫌なことは、ぜったいに相手にもしない。これは、どんな時も心に留めておきたい大切なルールです。

三つ目は、「勇気を持って行動すること。」差別やいじめが起こっているのを見ても、「自分には関係ない」と見て見ぬふりをしてしまうことがあるかもしれません。でも、それでは何も変わりません。もちろん、無理に危険なことをする必要はないです。でも、勇気を出して先生や家族、信頼できる大人に相談したり、いじめられている子の隣にそっと座ってあげたりするだけでも、その子の心は救われます。そして、その勇気ある行動が、周りの人たちにも広がっていけば、いじめや差別はきっと減り、起こりにくくなると思います。

差別やいじめのない社会をつくるのは、特別な誰かだけがすることではないです。私たち一人ひとりが、小さな勇気を持って、少しずつ行動することから始まります。

私は将来パン屋さんになりたいと思っています。おいしいパンを焼いて、食べた人を笑顔にしたいからです。でも、パンでお腹を満たすだけじゃなくて、差別やいじめで心がさみしい気持ちになっている人たちにも、優しいパンを届けたい。そのためには、まず自分自身が、人の「ちがい」を大切に、相手の気持ちを考え、そして勇気を持って行動できる人になること。それが、私にできる最初の一歩だと思っています。おとなになるまでに、この三つのことを忘れずに、たくさんの人と出会い、たくさんのことを学び、自分の心と頭を鍛えていきたいと思っています。そうして、私たちが作った優しい心が少しでも誰かの助けになったり、笑顔を増やしたりすることができたら、こんなに嬉しいことはないです。

差別やいじめのない社会は、私たち一人ひとりの小さな優しさと勇気の積み重ねから生まれます。そして、その積み重ねはきっといつか大きな力となり、だれもが自分らしく生きられる、あたたかい世界をつくってくれると信じています。